

BCAO 関西支部 第 51 回地域勉強会議事録

1. 概要

- (1) 日時：2011 年 1 月 19 日（水）18:30～20:00
- (2) 場所：人と防災未来センター
- (3) 座長：紅谷（人と防災未来センター）
- (4) 書記：藤村（竹中工務店）
- (5) 出席者：26名（順不同、敬称略）
角、日下、萩原、福島、前田、柳父、伊藤、大館、田中、西濱、野原、山口、池田、久保田、佐原、佐柳、鶴谷、速水、鷺山、
オブザーバー：細坪、平吾、川村、深谷、近藤
- (6) 議題：a. 緊急時の重要情報共有インフラについて（深谷様）
b. 目標管理型危機管理本部運営図上訓練（SEMO）について
（近藤様：東京大学生産技術研究所、前所属：人と防災未来センター）

2. 議事録

議題 a：「緊急時の重要情報共有インフラ」

★TSO (Tactical_Situation_Object)

- ・ ISO/TC223 で EU が提案。
- ・ 当局間（警察、消防、救急、道路、管理等）の緊急時情報共有のための規格
- ・ 情報は、フリーフォーマットではなく定義されたコードを使い構成
- ・ コードは、言語の置き換えが可能。イベント（事故、火災、地震、洪水など）、リソースの記述（確保済、利用可能、利用中）、ミッション表示（実行中、予定）などで構成
- ・ 既存システム（防災システム、救急システム等）との連携システムの開発が必要
- ・ 当局間での利用ルール（利用者、ミッションに対する権限）が必要

★安心・安全公共コモンズ

- ・ 総務省主導のプロジェクト
- ・ 多方面からの多様な情報を集約し、既往の多様なメディアからの情報提供を行うための変換システム
- ・ 実証実験（平成 20 年度東海実証実験）について紹介

【意見】

- ・ 個人情報と情報の真偽性によっては、運用上問題が生じる→利用ルールの運用が重要
- ・ 情報アウトプットのゴールは、言語表示よりマップ表示
- ・ プラットフォームづくりは、たて割行政の情報共有化に対して有効

議題 b：「目標管理型危機管理本部運営図上訓練（SEMO）について」

- ・ 目標管理型災害対応は、地方自治体においてあるべき危機対応システムとして人と防災未来センターが開発。下記の三原則から構成。
 - ① 関係者全体で共通の状況認識
 - ② 目標を明確にした災害対応計画の構築
 - ③ 戦略的な広報の実施

- ・時間経過に従って付与される状況に対して、それぞれの対応を個別に決定する図上訓練と異なり、断片的な情報から危機事象の全体像を把握し、組織としての目標を明確にした対応計画を作成するとともに目標達成に向けた戦略的な広報を行う図上訓練。
- ・作戦会議→演習→記者会見→評価を2日間で2回実施

3. その他

- ・深谷様資料は、1月20日にMLにて回送
- ・Vol.22 目標管理型危機管理本部運営図上訓練（SEMO）の開発は下記参照
http://www.dri.ne.jp/research/rep_tyousa.html
- ・今回予定の「人と防災未来センターの実施研修：トップフォーラム」紅谷様について、次回以降に延期。

4. 次回の関西支部会合・勉強会

日時：2011年2月17日（木）17:40～20:00

場所：関西大学 高槻キャンパス

担当：支部会合 座長：萩原氏 書記：日下氏
勉強会 座長：萩原氏 書記：紅谷氏

以上